Ⅰ　策定の趣旨

1　策定の趣旨

浜松市は、平成 17 年 7 月 1 日に天竜川・浜名湖地域 12 市町村による合併を行い、人口 80 万人を超える県下最大、中部圏では名古屋市に次ぐ規模の都市になりました。また、市域については、東西 52㎞、南北 73㎞、総面積は 1,511.17k ㎡と、全国で 2 番目に広い市となりました。

これにより、本市は、JR 浜松駅を中心とした都市的機能や先端技術産業が集積する都市部、都市近郊型農業が盛んな平野部、広大な森林を擁する中山間部、さらには、漁業が営まれる沿岸部までと、全国に類を見ない地域の多様性を有しました。

一方で、市域の拡大は、地理的条件や各地域のコミュニティに応じた、全市の均衡ある発展と地域固有の行政サービスの展開との両立などの課題を抱えることとなりました。

このため、本市においては、地域それぞれの生活環境の違いをお互いに理解し合い、課題解決に向けた共存共栄の取り組みを進めることにより、都市の一体性の確保に努めるとともに地域の個性を大切にし、様々な主体が活躍することのできる多様性のある都市づくりを進めることが必要です。

そこで、第 1 次浜松市総合計画では、都市経営戦略の基本的枠組みとして、「都市空間形成の考え方」を示しました。これは、市民生活を支える産業の維持・発展を基本としながらも、開発と保全のバランスに配慮する中、市街地の無秩序な拡大の抑制に関する考え方であり、そのためには、市内の各地域のそれぞれの特性に応じた都市機能の集積を進め、特色ある拠点を形成し、都心を中心とした相互のネットワークを構築することで、常に新しい価値を創造し、補完していくことが必要という考え方です。また、その中で、都心は、JR 浜松駅を中心とする中心市街地とし、政令指定都市・浜松の顔であり、拠点性の最も高い地域として位置付け、さらに、都心に次ぐ高い拠点性を有する地域として「副都心」を位置付け、都心の機能を補完する拠点形成を目指していくこととしました。

本構想は、中心部の都市機能の強化とともに重要となる副都心の整備に向け、考え方を示すものです。

図 1　副都心形成の考え方の構成

① 現状分析
- 副都心の考え方に係る経緯
- 浜松市の概要
- 副都心地域（浜北区）の概要

→

② 浜北副都心形成の考え方
- 浜北副都心の位置付け
- 浜北副都心に求められる機能
- 浜北副都心の将来像と施策・事業イメージ
- 浜北副都心と各拠点とのネットワークの形成

* 本基本構想では、SWOT 分析を踏まえた現状分析から、課題を抽出し、課題解決から見た副都心形成の考え方を示します。